

赤城古民家 IRORI場

生まれ変わり①

所有者が活用法に困っていた
古民家が夢を語る集いの場に



元々のつくりを生かすため必要以上に手を入れないようにしている
そう。木の温もりを感じられる空間が広がっています。



農産物や飲食販売、クラフト体験ができるマルシェ「農窓市」などの
イベントも開催。地域の人々などが集います。

所有している古民家や空き家を活用したいと考えている
人はIRORI場へ相談してください。

IRORI場 ☎027-212-5426



メールは
こちらから

(左から) IRORI場で自伐型林業まえばしTEAMとして活動 檀原 真広さん IRORI場共同オーナー 栗原 大輔さん
IRORI場共同オーナー 手島 敏達さん 移住コンシェルジュ 鈴木 正知さん

困った空き家を減らすために

進めています

空き家対策



全国的に課題となっている空き家問題。放置が続くと景観が悪くなるだけでなく、災害の際に倒壊したり放火などの犯罪につながったりと、危険な面もあります。前橋市内には、約6,000件もの空き家が。表紙の数字のとおり、特に千代田町や三河町、大手町、城東町などの中心市街地付近の地区で空き家率が高くなっています。

また、すでに空き家になっている建物だけでなく、「空き家予備軍」も多く潜んでいるのが現状。住人の高齢化や所有者が活用法を見いだせず、数年後に空き家になる可能性が高い家のことです。

こういった空き家や空き家予備軍をどのように減らしていくかが空き家対策の鍵。今回は、さまざまなアイデアや方法で空き家や空き家予備軍を生まれ変わらせた事例を紹介します。

赤城県道沿いに建つ、築130年の古民家。本市の移住コンシェルジュである鈴木正知さんらの手によって、3月から「赤城古民家IRORI場」として生まれ変わりました。

以前は店舗として営業していたこともありましたが、その後は空き家予備軍に。そこで、移住希望者の宿泊場や赤城の魅力発信の拠点が必要だと考えていた鈴木さんが、ここを活用することになりました。そして、2人のオーナーを迎え、今、さまざまな取り組みが進められています。

「ここは移住希望者へのおもてなしだけでなく、何かにチャレンジしたい人を後押しする場でもあります。何ができる場所、という細かいことはあまり決めていません。集まった人たちが好きなことをできるような場所にしていきたい」と鈴木さん。

周辺住民からも続々と期待の声が寄せられているそう。一時は空き家予備軍になっていた場所が、夢を持った人々の集いの場として生まれ変わりました。